



日本聖公会  
大阪教区教務局  
〒545-0053  
大阪市阿倍野区  
松崎町2-1-8  
TEL 06-6621-2179  
FAX 06-6621-3097  
発行責任者  
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 [office.osaka@nsk.org](mailto:office.osaka@nsk.org)

第442号 2015年4月26日発行

主の御復活をお祝い申し上げます。

わたしは、この教区報が発行されます時には、神のお赦しあれば主教に挨拶させていただきます。皆様に申し上げることができるよう具体的な計画は、今はまだありません。まず聴くことから、始めたいと考えています。聴く姿勢の中に、思いがけない主イエスか



主教 アンデレ 磯 晴久

## あなたがたに

## 平和があるように

安堵感で包まれる。余剰な華美を排した、徹底して質朴な宗教空間に身を置いているだけで、自分の何かが自然に浄化されてゆくような、そんな気になってしまおう——著者は、川口基督教会を取材する中で、郷愁と寛容に満ちた不思議な安堵感という特別な体験をしています。

鍵をかけてなすすべもなく途方にくれていました。そこへ復活の主イエスが来て、弟子たちの集いの「真ん中」に立ちます。イエスは「あなたがたに平和があるように」と言います。これは普通のあいさつの言葉（ヘブライ語なら「シャローム」）なのですが、21、26節で繰り返されるところを見る

から何も恐れることはない、これがキリストの平和です。わたしたちは、主イエスによって恐れの外へと導かれます。この平和に満たされたとき、扉を内側から開いて出て行くことができるのです。弟子たちは不思議な安堵感と平安に包まれたのです。

復活したイエスとの出会いは、弟子たちにとって「赦される」体験でもありました。「赦し」とは「和解、関係回復」の出来事です。一度はイエスを見捨てて逃げてしまった弟子たちは、本当に情けなかったでしょう。しかし、復活したイエスは、弟子たちを責めるのではなく、赦し再び弟子として受け入れ、新たに派遣します。「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」（21節）。弟子たち（わたしたち）の使命の中心は「キリストの平和を伝えること」「赦し合うこと」、そして弱い人間である弟子たちが、この使命を果たすことができるように「聖霊」という神からの力が与えられます。

らの息吹きを頂けると信じるからです。若一光司著「大阪地名の由来を歩く」（ワニ文庫）の中に、川口基督教会のことが紹介されています。「その教会の礼拝堂に足を踏み入れると、なんとも感動的な、郷愁と寛容に満ちた世界が広がっていた。宗教心の乏しい私でさえ、温かく迎え入れられ、祝福されているかのような、不思議な

けた弟子たちの体験は、もつと衝撃的なきし不思議な安堵感、平安を与えるものでした。ヨハネによる福音書20章19節以下を見ると、「弟子たちはユダヤ人を恐れて」とあります。先生であるイエスが逮捕され、無残に殺されたという、自分たちにもどんな迫害が及ぶか分からないので、弟子たちは恐怖におびえ、一つの家に閉じこもり、中から

と、弟子たちにとって、とても印象的な、そして思いもよらない言葉だったのです。弟子たちは恐れにとらわれていましたが、本当の平和は鍵をかけて閉じこもるところにはありませんでした。いくらか鍵をかけていても、心は恐怖でいっぱいなのです。本当の平和はイエスが共にいてくださるところから来ます。イエスが共にいてくださる、だ

（いそ はるひさ・教区主教）

# 成岡宏晃 新執事誕生

3月21日(土)、東豊中聖ミカエル教会で、成岡宏晃聖職候補生の執事按手式が執り行われた。当日は晴天に恵まれ、新執事の前途を祝していた。当日の説教者は以前、新

## 主に従い行くはいかに喜ばしき

執事 フランチェスコ 成岡 宏晃

主の公会の執事に叙任されましたことを、喜びをもってみなさまにご報告いたします。これまでの道のりを振り返るとともに、これからが神さまと人とに仕える、新しいのちへの始まりであると、強



い決心のうちに日々を過ごしております。執事試験に合格してから、按手を受けるまでの期間、祈りのうちに神さまから大きな恵みをいただきました。それは、「公会の執事に召される」という出来事は、私たちが主イエスさまの生き方に倣い、神さまに祈りを捧げる、神さまに思いを届ける、そのことが私たちの目に見える形で成就したことを告げる、大きな奇跡のような出来事であるのかもしれないということでした。

の信仰の成長過程を温かく見守っておられたことを感じる説教でした。

式後の祝会は、新執事のご両親はじめ約200人の出席者で室内はいっぱいで、大西主教のお祝いの言葉をはじめ友人、各団体のお祝いとお

謙遜でもなんでもなく、本当に何も持たない、フランチェ

祝い品の贈呈があり、お父さんが一人息子だけに大切に育ててきたことを話された。最後、宇野主教のはげましの言葉と、お祈りで終了する。

今後、みなさまの祈りに支えられ大いに活躍されることを祈ります。

(編集部・小出裕司)

エスコ成岡宏晃が公会の執事に召されたということは、時

にはにわかには信じがたくなることもある、人間の限界を超えた何かを私たちに示そうとされる、神さまの臨在の、何よりの証しであると確信いたしております。

主とともに生き、主によって用いられるディアコノスであり続けられますように、これからも多くの方の祈りとともに、歩んでまいります。

(なるおか ひろあき・東豊中聖ミカエル教会牧師補)

## オーガスチン 高野晃一 主教 逝去記念

去る1月20日、82歳の生涯を終えられた高野晃一・元大



阪教区主教通夜の祈り、葬送式は、それぞれ23日、24日いずれも北関東教区東松山聖ルカ教会で執り行われた。

大阪教区の逝去記念会は、2月11日(水)、主教座聖堂(川口基督教会)で開催された、教区関係教役者逝去記念聖餐式の中で執り行われた。

当教区現職・退職の教役者ほぼ全員が式服を着用してプロセッションに加わり、高野主教夫人をはじめ、ご家族の方々を含め100人以上が参列した。説教壇に立たれた大

西修主教は、阪神淡路大震災の大変な時期に、他教区から遣わされた高野主教の主教ならではの苦勞を推察され、それぞれの思いは思いとして、神さまの目を見つめ徹底的に主に従うことにより、主の前に立つことができることと話された。

式後、春代夫人が、主教は孫にも慕われ、穏やかな人生を終え、感謝して神のみもとに行かれたと挨拶された。会館2階で軽食をいただき、高野主教を偲ぶ思い出話の時間が持たれた。

(編集部・小出裕司)

第114(臨時)教区会

「2014年度会計決算」を承認

「宣教懇談会」では献金について分かち合い

去る3月15日(日)午後3時から、前年度の教区会計決算のための臨時教区会が、主教座聖堂(川口基督教会)会館で開催された。議案は後記の2つで、いずれも原案どおり可決、承認された。

《議案第1号》2014年度日本聖公会大阪教区決算承認の件》

収入は、予算総額4,100万円に対し、実績41,447,359円で、45万円弱の増となった。ただし、この中には「特別積立金」から取



り崩された100万円が含まれている(当初、昨年単年度に見込まれた収入だけでは予算の支出額を賄えなかったため)。

収入の部で予算を大きく上回ったのは「臨時献金」。毎月、主教座聖堂で行われているレクイエム(教区関係教役者逝去記念聖餐式)の信施、記念・感謝献金、及び祝日の聖餐式信施が、予算33万円に対し74万円余となった。

《議案第2号》2014年度日本聖公会大阪教区一般会計収支余剰金処理の件》

前記余剰金を、「特別積立金」に繰り入れる(このうち

支出は逆に、予算総額4,100万円に対し実績39,902,283円で、110万円は前年度の取り崩し分)。

今回の臨時教区会では、議長を務められた大西修主教とあって、任期中最後の教区会。議案決議に先立つ開会演説では、ルール上「臨時」と位置づけられている3月下旬のこの「教区会」を「定例」と名称変更することへの要望に言及された。また人事に関し、長年にわたり大阪教区で奉仕された趙ジョンピル司祭への感謝、成岡宏晃執事とユリアン・ヒューム神学生、さらに

は磯晴久主教誕生への期待を述べられ、最後に、2008年から7年間にわたるご自身の働きが、皆さんのお支えにより全うできたことを深く感謝する、と締めくくられた。

臨時教区会後には、「宣教懇談会」が「献金について」をテーマに開かれた。小冊子「禁じられた献金」をもとに山本眞司祭が発題をした後、グループに分かれ、5時頃まで懇談が続いた。懇談内容については、後日、まとめが配布される予定。(編集部)

公 示

救主降生2015年3月21日  
日本聖公会大阪教区主教  
主教 サムエル 大西 修

以下の人事を発令します。

執事 フランチェスコ 成岡 宏晃

東豊中聖ミカエル教会勤務を解き、  
同教会牧師補に任命する。

第9回

ペンテコステ・ヴィジル

(聖霊降臨前夕の祈り)

日時 2015年5月23日(土)  
午後5時~6時

場所 大阪カテドラル聖マリア大聖堂

JR森之宮、玉造下車 徒歩15分  
大阪市中央区玉造2-24-22  
TEL:06-6941-2332

説教 アンデレ 磯 晴久 主教

献金先 あしなが育英基金(東日本大震災)

【問い合わせ】  
072-261-2015(堺聖テモテ教会)



## 大西主教と行く新しい聖地旅行

司祭 ペテロ 岩城 聰

2月24日(火)から3月6日(金)まで、大西修主教を団長として大阪教区を主体とする総勢25人からなるグループがイスラエル・パレスチナを訪問しました。教役者は京都教区の司祭を含めて4人、他教区からの信徒の皆さんは東京教区、中部教区から5人が参加されました。雨季も終わり、晴天に恵まれ、快適な旅行を楽しむことができました。

大西主教の在任中、主教とともに旅をする最後の機会とあって、当初から申込みの出足はよく、締め切り前にすでに30人の申込みがありました。しかし、そのころいわゆる「IS」による後藤健二さんらの殺害という悲劇があり、「今の時期に行つて大丈夫か」「中止すべきだ」との声も上がり、教区としては慎重に検討を重ね、現地の受け入れ団体である「サビール」(「道」という

意味で、困難な状況にあるパ

レスチナの人々を支援する超

教派の運動。聖公会のナイム・

アティック司祭が創設者)や、

聖公会のエルサレム教区、現

地の日本大使館に勤務してい

る人などに問い合わせた結果、

「大丈夫だ」との確約を得て、

出発に踏み切りました。エル

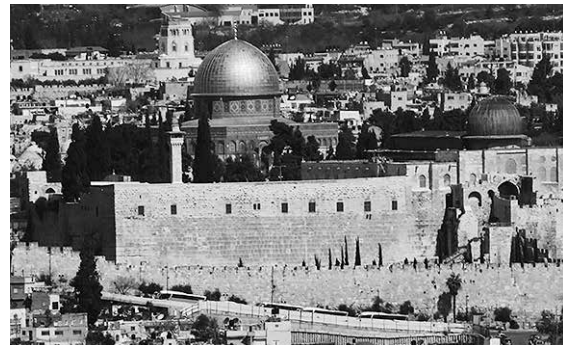
サレム教区主教のダワーニ師

父からも、「あなたの方の安全

を保証します」との力強い言

葉をいただきました。

「新しい」と銘打った理由



者との交わりを中心にししました。もちろん、いわゆる「聖地」にある聖書ゆかりの土地や建物も訪問しましたが、重点は「出会い」にありました。主

日にはナザレの聖公会「クラ

イスト・チャーチ」で聖餐式

を共にしました。礼拝はアラ

ビア語と英語で行われました

が、その中で古澤司祭が福音

書を日本語で朗読したことは

とても大きな恵みでした。また、エルサレムではダワーニ

スト者はほとんどパレスチナ人です(イスラエルはユダヤ教を信じる「ユダヤ人」が主体の国家です)。しかも2000年前の聖霊降臨の出来事から連綿と続くクリスチャンの家系に属している人が多いのです。イスラエル国は、1967年の第三次中東戦争後の過程でヨルダン西岸地区とガザ地区をパレスチナ自治区として認めましたが、その後もヨルダン川西岸地区を軍事占領下におき、年間30万人のユダヤ人を受け入れるために、アラブ系のパレスチナ人を追い出しにかかっているのです。そのために、あちこちに入植地を建設し、パレスチナ人を隔離し、分断するために至るところに高さ8メートル以上に及ぶコンクリート製の「分離壁」を建設し、そこを通るためには「検問所」を通らなければならぬようにしています。エルサレムにあるセント・ジョージ大聖堂の信徒も、以前なら車でわずか10分で来ることができたのに、今は迂回をして一時間以上かけて教会に來なければなりません。その他、教育、就職、経

済で様々な差別政策がとられており、国連でも現イスラエル政府のやり方は問題視されています。こうした状況のため、パレスチナにおけるクリスト者は以前は25パーセントであったのに対し、今では2パーセントに激減しているとい

うのです。その他、テント・オブ・ネーションズと言って、先祖伝来の土地を守るための運動を続けているパレスチナ人クリスト者農民の集落を訪れ、決して暴力を用いない「愛」に基づく運動の経験を聞くことができたのは、わたしたちにとっても大きな励みでした。今は復活節です。イエスさまが復活され、弟子たちより先に行かれたガリラヤ。そのガリラヤにもわたしたちは足を伸ばしました。山上の説教の山からガリラヤ湖へ下る道の両側には、さまざまな花が咲き乱れ、麦の穂が実りかけていました。きつとイエスさまは弟子たちと語り合いながらこのような道を歩いて旅を

続けられたのでしょうか。わたしたちはガリラヤ湖へ通じる「鳩の谷」と呼ばれる

溪谷の木下で、大西主教の司式で聖餐式を献げました。鳥のさえずり、花の香り、溪流のせせらぎ。そしてわたしたちの頬をガリラヤのそよ風が撫でて行きます。本当に恵ま

### 「壁」を知って

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

今回の旅では心に残ったことが数多くありますが、その一つにジェラルド弁護士のお話を挙げる事ができます。ジェラルド弁護士は、軍事法

で裁判にかけられた子どもたちのために弁護をされている方です。イスラエルによって建てられた高さ8メートルの「壁」は、そのほとんどはヨルダン川西岸地区内に建設されています。

ジェラルド 弁護士によれば、この「壁」が建てられることで、またイスラエル兵の往来によって子どもたちもフラストレーションを抱



黄金のドーム前で

子どもにしてみれば、兵士に連れて行かれる自分を父親はなぜ守ってくれないのかと感じます。連行された子どもは、保釈後も自分の父親を尊敬することはできず

れた聖餐式でした。ガリラヤこそが、そこから出発し、エルサレムで苦しみを受け、ゴルゴタで十字架につけられたイエスさまが再び戻られた宣教の現場であり、イエスさま

の復活への喜びにあふれるところだと実感しました。多くの学びと思い出を携え、何と言ってもイエスさまが生活し、受難され、復活された土地の「息吹」を全身で感じ

取って帰国することが出来たことに、主に心から感謝したいと思います。(いわき あきら・聖地旅行事務局長、川口基督教教会牧師)

反抗的な態度を取ります。尊敬されなくなった父親もその理由が分かるだけにストレスを抱え家庭内暴力へと走ってしまいます。そしてその家族は分断されます。このようなケースも多くあるようです。

### 新しい聖地への旅

タビタ 長野 加代子

今回の旅は「大阪教区の新しい聖地の旅」というタイト

ました。バスの窓からは高い分離壁が延々と続き、パレスチナ人の居住区はゴミが散乱し、道路もガタガタ。また突然大きな石が道に置いてあり、通行

の旅です。事前にパレスチナの旅の学びの時を持ちました。が、ピンと来ない状態でした。すでに何度もイスラエルに行っておられる東京教区の3人の女性信徒が同行・案内してください心強く、かつとてもわかりやすく説明してください

できないのです。入植地は高台の環境のいいところを占めており、美しく整備されています。分離壁で分けられています。分断壁で分けられてしまうと、自分の畑に行けず、収穫もできません。政府から「半年も1年も行かないから、もういらないのだろう」と取

り上げられてしまうのです。さらに突然銃撃を受け、連行されて家族がバラバラになるなど理不尽なことがかりです。日々死の恐怖にさらされ、困難な状況の中にいるパレスチナ人ですが、神様が必ず働いてくださり、こんな状況がいつまでも続くはずがないと希望をもって生活している姿勢に驚きました。このような状況を知り、多くの人に伝えることが大切だと思いました。

それでも、イスラエル、とくにガリラヤの自然はきれいでした。ちょうど野の花の季節で、野原一面黄色の絨毯、野生のアネモネ、シクラメンなのか、カタクリのような花、日本の菖蒲の小形版、あめんどうの花や鈴なりのレモン。市場ではリンゴ、バナナ、オレンジ、ザクロが満載。花が咲き乱れ、小鳥が鳴く、鳩の谷と言われる大きな木の下で聖餐を受けました。

この旅に参加して、多くの豊かな恵みをいただき、感謝で一杯です。(ながの かよこ・石橋聖トマス教会信徒)

# ウイリアムス神学館卒業

## 3年間の苦楽が恵み

聖職候補生 ペテロ 金山 将司



去る3月13日、教区の皆様のお祈りに支えられながら、ウイリアムス神学館での学びを終え、無事に卒業すること

ができました。心から感謝いたします。

この3年間で振り返ると、勉強や寮生活だけでなく、信仰的にも試みの時であったと感じます。今までしたことのない聖書学や神学等を学ぶことへの戸惑いもあり、また寮生活という共同生活経験では、時に辛いと感じることもありましたが、しかし、最大の試練は、それまで当然だと思っていた神様への信仰が揺らぐという体験でした

夕の礼拝で黙想していた時、私は祈る自分がひどく虚しくなり、自分は一体何を信じているのだろうかとの際限のない不安に襲われました。しかし、そのような時に虚しさに耐え、黙想するうちに3年間苦楽を共にした神学生たちとの日々と、信徒の皆様を支えられ、またその信徒の皆様を導いた神様に支えられているということが思い浮かんできました。

3年間のうちで、試されたことは多くありましたが、この時の孤独な虚しさから、共に誰かが、いてくださるということに気がついた経験は私にとって大きな恵みでありました。

現在、芦屋聖マルコ教会に遣わされ、牧師館でこの文章を書いていきます。卒業した当

### ウイリアムス神学館入学

#### スコットランドから日本に

#### そして20年後に召命！

#### ヒューム・ウイリアム・ユーワン



4月からウイリアムス神学館で学ばせて頂く、川口

基督教会出身のヒュームウイリアム ユーワンでございます。教名は名前と一緒に、ウイリアム ユーワン (William Ewan) です。私はイギリスの北部、スコットランドのエジンバラで生まれました。1996年に日本に来ました。生まれた時から家族

初は実感がなかったのですが、今は教役者としての歩みを始めるにあたり、畏れ、期待、様々な感情がわいてきます。今後も様々な試練があるかもしれないませんが、皆様のお祈りに支えられて歩んでいきたいと思えます。

(かなやま まさし・芦屋聖マルコ教会勤務)

はカトリック信徒なので、カトリック教会で幼児洗礼を受けました。10歳ごろ家族はスコットランド聖公会に移って、私はスコットランド聖公会で堅信を受けました。

私が初めて召命を考えたのは20年以上前の、大学院の時でした。その時から今まで時間がかりましたが、様々な経験を積んで、日本の社会が分かるようになりました。最初に、帰国してエジンバラ教区に聖職候補生志願をしようと考えましたが、もう日本に

住んで、妻と子供は日本人なので、神様のお恵みによって大阪教区に聖職候補生志願書を提出しました。

明治期に日本で働いていた外国人の宣教師は日本人聖職者を養成しました。私にとっではその事は逆になりましたが、現代は日本の社会の国際化が始まり、様々な障害を打破し始めていますので適切な機会だと思えます。今年、大西主教と行く「新しい聖地旅行」に参加して、サベール (Sabell) を紹介されました。サベールはエキュメニカル団体、パレスチナ解放神学を通してパレスチナ地方で平和、和解、非暴力を進めています。世界規模で国際化が広まっていますが、暴力、差別などは増えています。けれどもサベールの例はイエス様の御言葉と御業は現代の世界に不可欠であることを示しています。この3年間にウイリアムス神学館で学び、実践的経験を積み、日本における聖職としてこれからの生涯を献げたいと思っています。

(教区神学生・川口基督教会出身)



京都教区・大阪教区 聖職養成委員会

合同で「春のセミナー」を実施

主教 アンデレ 磯 晴久

2015年「春のセミナー」は、3月24日（火）大阪聖パウロ教会を会場に行われました。参加者はスタッフも含めて、京都教区11人（うち聖職候補生5人、執事1人）、大阪教区7人（うち聖職候補生2人、執事1人）でした。午前中は、開会礼拝の後、自己紹介と「今の自分を語る」を



テーマに、分かち合いの時を持ちました。午後は岩城聰司祭を講師に、「京都教区と大阪教区との協働・合併に向けてその現状と課題」のテーマ

りと、熱心な質疑応答が交わされました。また既に現場に出ている執事・聖職候補生から、特に京都教区では、十分に信徒のレベルにまで情報や理解

が行き渡っていないのではないかとこの声も上がっていました。時宜を得たテーマで、豊かなセミナーとなり、感謝でした。セミナーは、夕の礼拝の中で、高地敬主教よりメッセージを頂き閉会となりました。（いそ はるひさ・教区主教、前聖職養成委員長）

いつも会場を提供くださり、資料の印刷などお世話下さっている大阪聖パウロ教会と林正樹司祭、信徒の皆様にご感謝しつつ、私の報告とさせて頂きます。

ウイリアムス神学館出張講座

「教会奉仕者のための学び」報告と案内

主教 アンデレ 磯 晴久

午後2時から午後3時30分まで、開始は4月25日土曜日です。

（いそ はるひさ・教区主教・前生涯学習委員長）

2014年度「教会奉仕者のための学び」での開講科目は、一つは「聖公会の教会問答」。講師はウイリアムス神学館教授・大阪教区川口基督教会牧師である岩城聰司祭で、同司祭の著書「聖公会の教会問答」を参考文献として講義がなされました。受講者は18人。もう1科目は「新約聖書入門 ルカ福音書に聴く」で、講師は、ウイリアムス神学館教授（当時・京都教区下鴨基督教会、現・京都聖ステパノ教会牧師）の黒田裕司祭が講義をしてくださいました。受

講者は19人。それぞれ10回の講義があり、受講者は熱心に取り組んでいました。2015年度は、開講科目は「新約聖書入門・ヨハネによる福音書を読み解く」で、講師は関西学院大学専任講師・ウイリアムス神学館講師前川裕先生が担当してくださいます。開講日は原則として第4土曜日で、

「信徒の学び」出張講座のご案内

祈りと賛美と共に

～ ゆりかごから天国まで ～

第2回（2015年）

6月28日（日） 13:30～15:30  
大阪城南キリスト教会（南部）

7月26日（日） 13:30～15:30  
石橋聖トマス教会（北部）

8月23日（日） 13:30～15:30  
尼崎聖ステパノ教会（阪神）

講師：内田 望司祭（堺聖テモテ教会）

辻 彩乃さん（川口基督教会）

3回とも同じ内容です。お近くの教会、またはご都合のよい日時を選んでご参加ください。礼拝をより豊かにすること間違いなし！の楽しくて分かりやすい講座です。

共催

大阪教区宣教部「礼拝・音楽委員会」と「生涯学習委員会」

# 大阪教区婦人会 超教派の集いに参加 ACWCJ 関西支部研修会と世界祈祷日礼拝の報告

リベカ 吉川 礼子

大阪教区婦人は、超教派で構成される2つの委員会に加盟しています。昨年度から今年度にかけてもエキユメニカルな礼拝を守り、参加することが出来ました。

2014年11月7日(金) 在日大韓基督教会京都教会に於いて、9教派・教区が参加する「第28回アジア教会婦人会日本委員会 (ACWCJ) 関西支部一日研修会」が行われました。テーマは、「わたしを平和の器にしてください」。参加者は259人(うち聖公会58人)、席上信献金は223,654円でした。

また、2015年3月6日(金) 日本福音ルーテル大阪教会に於いて、12教派・団体が参加する「世界祈祷日礼拝」が行われました。今年はバハマからのメッセージ、バハマの姉妹のために祈りました。参加者は188人(うち聖公会49人)、席上信献金は1

72,711円でした。礼拝当番は、加盟教派・団体で順番に持ち回ります。

貧困や紛争、国の情勢などで苦しみ、弱い立場に置かれている世界中の女性や子どもたちを覚えて、教派を超えて共に祈り、学び、思いをひとつにする大切な時間が与えられます。教派は違っても信仰はひとつ。小さな私達が外の世界に目を向けて信仰生活を送ることが出来るよう、神様がお導き下さいます。

毎年、聖公会の出席者数は、参加教派の中で大きな割合を占めています。信徒会員の減少や高齢化の理由で、委員会への加盟存続が難しくなっている教派が出て来ているのも現状です。神様が大阪教区婦人会を「神様の平和の器」として用いて派遣して下さい、他教派の姉妹たちと共に祈れることに感謝いたします。(よしかわ れいこ・西宮聖ペテロ教会信徒)

## J's キャンプに参加して



華 尾崎 リタ

3月30日から4月2日まで、京都教区と大阪教区の中高校生を対象とした春のJ'sキャンプに参加させていただきました。今年度は沖縄で開催され、総勢30人が参加し、沖縄の基地問題などについて一緒に学ぶことが出来ました。

1日目は普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会に参加し、普天間バプテスト教会の



日本聖公会大阪教区婦人会

## 昇天日礼拝



日時：2015年5月14日(木) 午前10時30分～ 聖餐式

場所：川口基督教会

説教者：アンデレ 磯 晴久 主教

献金先：「生野センター」のため  
「原発と放射能に関する特別問題プロジェクト」こども支援のため

昼食後 2015年度 教区婦人会総会 (91周年総会)

皆さんと一緒に歌い、祈りました。この集会は、オスプレイ配備や基地から派生する事件事故による危険に対し、歌で抗議をしようという会です。歌うことで皆の心が一つになり、道行く人や基地で働く人にも何かしらの働きかけができたと思います。

2日目は辺野古へ行き、埋め立てが検討されている大浦湾の海岸近くで移設反対の運動をされている方にお話を聞

きました。大浦湾はサンゴやジュゴンの食べる藻類もたくさん生えているとてもきれいな海です。付近の山に登り、大浦湾を一望すると、サンゴやマングローブなどの豊かな自然に感動すると同時に、すでに立ち入り禁止になっている海岸と、埋め立て予定地に浮かぶブイの広さに驚き、この海を埋め立てることによっておこる環境破壊のことを考

(次頁4段目につづく)





# 大阪教区青年会Gループ活動報告

グレース 内海 紗英子

翌年の集会で成果を報告しあうというものです。今年、大阪教区は京都教区とグル

ープを組み、教会での奉仕活動

Gループは大阪教区に連なる18歳以上の青年の集まりです。その活動の中で、春と夏の年2回行われている「キッズフェスティバル」のお手伝いは、特に大きなものになっています。今年も4月29日に行われる春キッズに向けて3回のミーティングが行われ、私たちGループも参加しました。ミーティングでは今回のテーマである「おいのり」について、それぞれの「祈り」への思いや考えを出し合い、それを子どもたちに伝えるにはどうしたらいいのか、どうすれば子どもたちと実りのある一日を作れるのか。手探りで1日の流れを考え、準備を進めました。当日は、私たち青年が年齢別に分けられた子どもたちのグループリーダーとなり、共に一日を過ごし、礼拝を行います。多くの子どもたちと共に、学びのある1日になることを願っています。

また、Gループによる奉仕活動でも、全国的な青年の集まりであるU26集会を通して新しい動きを得ることができました。U26集会の中に「アクシオンプラン」というプログラムがあります。これは教区毎に2つずつ組み合わせを作り、そこで立てた計画を1年間で実行できるように努力し、

一歩を踏み、教会での奉仕活動をそれぞれの教区内だけでなく、お互いの教区を行き来して行うという計画が立てられました。教区内での活動も、他教区との繋がりを強める働きも、今後より深めていければと思います。

（うつつみ さえこ・川口基督教会）

（うつつみ さえこ・川口基督教会）

## 大阪教区子ども礼拝 キッズフェスティバル2015



# 春キッズ

いのりって何だろう？

4月29日（水・休）  
10：00（受付）～15：00  
会場：川口基督教会

— 問い合わせ・参加申し込み —

生涯学習委員会 子どもプロジェクト担当：斎藤みち  
電話 06-6854-8657（石橋聖トマス教会）  
FAX 06-6621-3097（教区事務所）  
Eメール kyoukukids@gmail.com  
主催：大阪教区 宣教部生涯学習委員会



（前頁よりつづく）  
えるとても胸が痛みました。そして、少し場所を移動してシーカヤック体験をしました。あらかじめ決められたペアでカヤックに乗り込み、沖の方まで出たり全員でいかだを作ったり楽しい時間を過ごしました。  
3日目は読谷村よみたんの2つのガマを見学しました。1つは、自決によりたくさんの方が亡くなったガマで、付近の自然の美しさに反比例するような悲しい出来事に言葉が出ませんでした。2つ目のガマは、英語を話すことができる人がいたおかげで、ほぼ全員が生

きて出られたガマでした。たった一人でも希望を持っている人がいると、絶望的な状況でも希望を見出すことができる。2つ目のガマで聞いたこの言葉がとても心に響きました。  
この4日間で、本土にいるとなかなか知り得ない、自分にとっては重く、辛い沖繩の現状と、住んでいる方の気持ち、豊かな美しい自然を、こうして聞いて知ることができ、とても良い経験になりました。沖繩で聞き、体験したことを周りの人に伝え広げ、関心をもってもらおう。それがこのキャンプに参加した私たちのこれからの課題です。

4日間、私たちを案内し、貴重なお話をしてくださった沖繩教区小祿聖マタイ教会の高良司祭と、準備、サポートをして下さった先生方、スタッフの皆さんにお礼を申し上げます。  
そして、この素晴らしい機会と仲間に出会わせてくださった神様に感謝します。  
（おざき はな・尼崎聖ステパノ教会信徒）

# 第4回 U26 全国集会 参加報告

フランシスカ 内海 理紗子



2月20日～22日、私は千葉  
県市川市で行われた第4回U  
26全国集会に参加してきました。

U26（ゆーじろー）とは、  
18～26歳の日本聖公会に携わ  
る青年を対象にした管区規模  
のグループです。大阪教区か  
らは4人の青年が参加し、総  
勢31人で恵み深い時間を共に  
することが出来ました。今回  
のテーマは「Compassion」  
これには「私たちが互いに思  
いやり、憐みや苦しみ、情熱  
を共にし、一緒に歩んでいっ  
てほしい」という願いが込め  
られています。各々がこのテ  
ーマを基に、教会生活や信仰  
について考え、同世代の仲間  
と交流し、繋がりを深めまし

た。プログラムと  
しては、礼拝、聖  
書研究、自分たち  
の教区の活動を報  
告する活動報告会、  
これから他教区と  
どのように協力し  
ていくかを現代的  
に考えるアクショ  
ンプランなどがあ  
りました。活動報  
告会で、大阪教区  
はキッズフェステ  
イバルとグループについて紹  
介しました。

そして、私がU26に参加し  
て最も強く感じたことは、よ  
りたくさんの方々はこのU26  
集会のことを知ってもらいた  
いということでした。今回の集  
会で、参加者の信仰の深さ、  
運営委員の熱心さを肌で感じ  
ました。また、自分の教会生  
活を見直す機会が与えられた  
こと、同世代の仲間と真剣に  
話し合う時間が持てたことを  
感謝しています。このような  
機会は貴重であり、今後の若  
い世代に必要なことだと実感  
しました。今後U26に積極  
的に参加し、学んだことを大  
阪教区に持ち帰り、この繋が

りを広げていきたいと考えて  
います。  
(うつつみ りさこ・川口基督  
教会信徒)

## 世界の窓

◎聖公会主教グル  
ープが、気候変動危機  
のための祈りと行動  
を呼びかける

6つの大陸から17  
人の聖公会主教が集  
い、前例のない気候  
変動危機の解決のた

めに祈ることと行動すること  
を強く呼びかけている。これ  
は『世界は我らの宿主…気候  
変動のための緊急行動の呼び  
かけ』に掲載された宣言で8、  
500万人以上を数える聖公  
会共同体の新しい課題となる。  
この主教たち17人は2月に南  
アフリカで行われたインター  
ネット会話を構築するための  
会議で出会い、このグルー  
プを形成するに至った。

グループを統括しているケ  
ープタウン大主教で南アフリ  
カ総裁主教でもあるタボマク  
ゴバ師父は、「わたしたちは  
石油消費により成り立ってい  
る経済が、異常気象、海面上昇、  
海水の酸性化、漁場の枯渇化

等を引き起こし、それらを原  
因とした難民を生み出す要因  
となっている」という科学的論  
証を受け入れる」と語り、「問  
題は経済的、科学的、政治的  
であり、かつ精神的なもので  
ある。神が人間に被造物を世  
話するように命じたにもかか  
わらず、我々は今まで自然を  
支配しているという神学を受  
け入れてしまっていた。それ  
故に、人間はこれまで自然を  
ないがしろにしてしまったの  
だ。しかし、希望が全くない  
わけではない。アビラの聖テ  
レサが、人間はこの地上で神  
の手足であると語っているよ  
うに、今が気候変動危機に対  
して祈りに根差した神の手足  
としての行動を取る時なの  
だ」と強調している。

(Anglican Communion  
News Service: March 30th,  
2015)

◎新しいカウンセリング・サ  
ービスがウェールズで開始

経済的問題から家庭問題や  
依存症に至るまでを支援する  
ための、カウンセリング・サ  
ービスがウェールズで開始さ  
れた。このカウンセリング・

サービスは、ウェールズに住  
むキリスト教の聖職者とその  
家族のために設立されたもの  
で、宗派は問わない。センタ  
ーの最高責任者であるW・E・  
オーウェン氏は「聖職者は問  
題を持たない人間として認識  
されてきた。しかし、当然の  
ことだが彼らもわたしたちと  
同じ人間であって、プレッシ  
ヤーとストレスにさらされて  
いる。また問題があったとし  
ても、それを打ち明けること  
の難しい環境で働いている。  
だから、わたしたちは彼らと  
その家族に安心して援助とサ  
ポートを内密に提供できるよ  
うに整えた」と説明している。  
ウェールズ大主教バリー・モ  
ーガン博士は、「ウェールズ  
の教会は聖職者のためのこの  
サポートと支援を感謝すると  
ともに、この働き成功のた  
めに祈り、また共に手を取り  
合って仕え合える日を楽しみ  
にしている」と喜んでいる。

(Anglican Communion  
News Service: April 1st,  
2015)

司祭 ヤコブ 松平 功(ま  
つだいら いさお・桃山学院  
大学チャプレン)

## 特別寄稿

## 原発問題についての



⑪ 最終回

## 日本聖公会・原発と放射能に関する特別問題プロジェクト

## 【11】 原発は地球温暖化を防ぐだろうか

東日本大震災による原発事故の前には、しきりと地球温暖化防止の決め手は原発にあるという論調が流され、テレビなどでも電力会社によってそのようなPRがなされていきました。今また、地球温暖化を悪化させないためにも、原発は「必要悪」であるかのような主張がなされています。

確かに、原発は発電そのものにおいてはCO<sub>2</sub>を発生しません。しかし、次のような点で、原発は決して地球温暖化を防止しないことは明かです。

第一に、原発は高熱を発生する原子炉を冷却するための水（一次冷却水）を蒸発させ、その蒸気でタービンを回して発電します。その際、発電に用いられる熱は全体の3分の1、残りの3分の2は、復水器という仕組みによって熱を

二次冷却水に移し、それを海に捨てるしかない仕組みです。100万kWの原発1基ごとに

毎秒70トンもの水を取り入れて冷却するのです。日本の54基の原発がフル稼働すると仮定すると、その熱は一年間の日本の全河川流量の25%に当たる1000億トン分の海水を平均7℃上昇させることになりす。原発は温暖化を防止するどころか、巨大な海水温め装置なのです。

また、原発の燃料はウラン鉱石から造られますが、ウラン鉱石に含まれる天然ウランは0.3～0.7%、そのうち核分裂をする（つまり燃料になる）ウラン235はそのまた0.7%しか含まれていません。ですからウラン鉱石から天然ウランを取り出し、イエローケーキという粉にし、それを遠心分離機にしてウラン235を5%まで濃縮し、それを再転換工場で二酸化ウランの粉末

にしてペレットという直径1センチ、長さ1センチの円筒形に焼き固めます（ペレットといいますが、それを束ねたのが燃料集合体です。そのそれぞれの工程で莫大なエネルギー（電力）が使われるのは言うまでもありません。正確に集計されたデータはありませんが、その電力は火力発電所で発電されたものなのです。それらを合わせ考えると、原発が決して地球温暖化防止につなが

らないことが分かります。「原発は運転中は炭酸ガスを出さない」という電力会社の主張は間違いではありませんが、原発システム全体のことを考えれば明らかに間違いです。

## 【12】 反省と課題

原発が多くの問題性を含むものであることは、1970年代の後半から日本キリスト

教協議会の核問題委員会が、全キリスト教界に対し、盛んに問題提起を行ってきました。

同委員会では、当時から明確にウラン・ウムの採掘現場における被ばくや原発内における労働者被ばくの問題を指摘し、また核廃棄物が処理できないものであり、たまり続ける核廃棄物が負の遺産としての後の世代に災いを押しつけることになる警告してきました。そして原発が弱い立場におかれている人々の犠牲の上にはか成り立たないこと、したがってキリスト者の視点から原発が容認できないものであることを発信し続けてきたのです。

しかし、日本政府や産業界はもとより、キリスト教会においてすら、その叫びはほとんど無視されてきました。わたしたち日本聖公会においても同様でした。「原発は原子爆弾とは異なって平和利用であり、新しい時代のエネルギー」として必要不可欠である」という論理を、わたしたちは無批判に受け入れてきたのではないのでしょうか。「安価で安全な電力」という企業が作

り出した「神話」に呑み込まれてきたと言えるでしょう。

1950年代に、米国聖公会より提案を受け、立教大学が原子炉の提供を米国から受けた当時、日本聖公会は積極的にその労をとり、原子炉の開所式では米国聖公会総裁主教の「原子炉奉獻の祈り」を朗読し、「原子力平和利用」を先だつて進めました。

こうした歴史を振り返るとき、わたしたちも、わたしたちの教会も、神の創造の秩序を根底から覆す原発の問題性に対し無頓着であったという意味で、罪を犯してきたと言えるでしょう。50年以上も昔に原発や原子炉建設の問題性を見抜くことは困難であったという見方がありますが、たとえそうだとしても、その過去の事実を現時点でどう見るかということは明らかに現在の問題です。その事実をきちんと批判的に見つめ、反省し、そこから新しい歩みを始めないかぎり、今後の対応のあり方を見誤ることになるでしょう。

そのような反省を踏まえ、  
(次頁4段目につづく)





# OK委員会はいま??

## 大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会報告

大阪教区司祭 ヨハネ 古澤 秀利

去る2月12日に2015年第1回目(通算8回目)の「合併を推進する委員会」が開かれました。今年1回目の委員会は、昨年11月に開催された両教区会を振り返り、当委員会の間報告に対して議場から頂いたご意見を分ち合うことから始まりました。ここで共有したことを受けて、当委員会の各ワーキンググループでも議論を深めてまいります。

また前回までの議論からは引き続き、両教区が合併した場合の教区事務所の好ましい配置について、そして教役者の新給与体系の検討が行われました。また、今回委員会までにワーキンググループで議

### 主教 大西 修 師父 感謝募金

3月31日をもって定年退職された大西修主教の在任中のお働きを覚え、感謝の気持ちを表わすため、常置委員が呼びかけ慣例に従い「主教大西修師父 感謝募金」が左記の要領で行われます。

- \* 期 間 5月17日(日)まで
- \* 目標額 300万円
- \* 応募方法 各教会できりまためますので、各教会会計委員にお尋ねください。

#### 【大西修主教 感謝の集い(仮称)】

- 募金と同様の趣旨で「感謝の集い」が下記の日程で開催されます。
- \* 日時 5月31日(日) 午後2時
- \* 場所 川口基督教会

論された合併後の宣教ヴィジョンに関して、委員会で共有されました。

最後に両教区の合併・協働に関する今後の予定ですが、京都教区では4月29日に京都伝道区会で、5月30日に大和伝道区で教区合併に関する説明会が、そして10月12日に信徒代議員を対象とした全体への説明が行われる予定です。また8月15日には奈良基督教会において京都・大阪協

働での「平和を歌う、平和を祈る」平和礼拝(合同礼拝)が予定されています。

次回は5月28日に大阪聖パウロ教会で委員会がもたれます。主のみに適った話し合いがされますよう、お祈りいただければ幸いです。

(ふるさわ ひでとし・高槻 聖マリア教会牧師・OK委員会委員)

(前頁よりつづく)

未来におけるエネルギーのあり方に真剣に取り組み、原子力依存を直ちに転換し、人間と自然の平和を支えるエネルギーとして再生可能エネルギー

ーを追求することが必要ではないでしょうか。  
監修・河田昌東(NPO法人  
チェルノブイリ救援・中部理事)

## 教 区 の 動 き

### 常置委員会報告

#### 2月9日(第5回定例)

#### I. 協議事項

- \* 「2015年度教役者・教区事務所職員給与承認申請」の件 確認し承認。
- \* 第114(臨時)教区会の日程及び代議員懇談会のテーマについて協議。

#### 3月9日(第6回定例)

#### I. 協議事項

- \* 第114(臨時)教区会提出の2議案について確認し承認。
- 教区会後の代議員懇談会は山本常置委員長が「禁じられ



### 祝 受 洗

た献金」について話された後、4グループに分かれて懇談する。  
\* 成岡宏晃聖職候補生執事按手式3月21日(土)の式典、祝会、送迎等は豊中3教会(聖ミカエル、庄内、聖トマス)及び聖アンデレ教会が準備にあたる。

○大阪城南キリスト教会

エステル ウォン 龍任  
ナオミ キム 珉知  
パウロ キム 民宰

○西宮聖ペテロ教会

マルガリタ たしま 里奈  
(12月25日)

パウロ  
伊地知敏昭  
(1月25日)

○川口基督教会

ヤコブ 武内 奏仁  
マーガレット 上之園 一花  
(4月5日)

○大阪聖アンデレ教会

リディア 栗山 美奈子  
(4月5日)

○守口復活教会

アグネス 山本 裕子  
(4月5日)

○高槻聖マリヤ教会

ベタニアのマリア  
ヨナ 竹原 涼子  
ヨコブ 福山 貴之  
ヨハネ 山名 大悟  
キレネのシモン 山名 汰一  
古澤 凪  
(4月5日)

○石橋聖トマス教会

ヨシユア 原田 大哉  
(4月5日)

○西宮聖ペテロ教会

マルガリタ 田島 里奈  
パウロ 伊地知敏昭  
ステファノ 大澤 壽文  
田島 弘行  
(1月25日)

○大阪城南キリスト教会

エステル 元 龍任  
(3月22日)



主教クリストファー 木川田一郎師父が逝去されました



当教区・元主教クリストファー木川田一郎主教は、2015年3月18日(水)午前9時56分、在住されていた仙台市で89歳の生涯を終えられました。翌19日(木)にご家族のみで通夜の祈りが行

なわれ、20日(金)に火葬。葬送式は23日(月)、東北教区の仙台基督教会で執り行われました。司式は大阪教区主教(当時)大西修師父、説教は首座主教(北海道教区主教)植松誠師父が担当されました。

口基督教会)において、磯晴久主教・司式、宇野徹主教・説教で執り行われることとなりました。木川田夫人も仙台からお越しになります。どうぞご予約ください。

なお、初めに5月23日午後の予定という案内が流れていましたが、様々な事情で変更となりました。お間違いなさようお願いします。

○川口基督教会

ヨセフ 小山 敏秀  
グレゴリー 島崎 玲  
ウイリアム ヒューム 誠嗣  
(3月29日)

魂の平安を  
祈ります

○川口基督教会

マリア 小山 博美  
(1月27日・63歳)

ウイリアムズ 横倉 宏  
(2月5日・79歳)

ヨハネ 重松 陽子  
(2月7日・82歳)

ヨハネ 平岡 耕三  
(3月2日・98歳)

○大阪聖アンデレ教会

アンジェラ 加納智恵美  
(2月5日・50歳)

エリザベツ 芳村セツ子  
(2月15日・80歳)

○堺聖テモテ教会

ヨハネ 岡嶋 彦一  
(2月20日・86歳)

クララ 榎田 明子  
(3月7日・94歳)

○石橋聖トマス教会

マーガレット 藤木 典子  
(2月24日・86歳)

○尼崎聖ステパノ教会

スザンナ 岸 寿子  
(3月8日・94歳)

○大阪聖愛教会

リベカ 岡崎三津子  
(4月2日・90歳)

教会・施設の動き

恵我之荘聖マタイ教会

○3月22日(日) 趙ジョンピル司祭ご一家の聖マタイ教会での5年間のお働きに感謝して感謝送別会(宣教協働者として9年間の大阪教区での任期満了)

○4月5日(日) 牧師館に入室した、ユーワン・ヒューム聖職候補生志願者ご一家の歓迎会

○教会の電話&FAX番号は、072-953-5444に変更

○教会へのパソコン連絡は出来なくなりました。

○6月28日(日) 午後2時

尼崎聖ステパノ教会

○6月28日(日) 午後2時

教区関係教役者  
逝去者記念聖餐式

◇ 5月13日 (水) 午前 10 時 30 分

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 アンデレ 磯 晴久主教

司 祭 米村 健治 (1979.5.15)

伝道師 小幡 久能 (1961.5.24)

司 祭 アーネスト・ゴードン・ハッチンソン (1973.5.29 英)

宣教師 メーベル・C・バックス (1984.5.30 英)

◇ 6月10日 (水) 午前 10 時 30 分

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 クリストファー 奥村 貴充司祭

司 祭 ロバート・マルコム・ミルマン (1945.6.3 加)

司 祭 オーガスチン 芦澤 光雄 (2002.6.4)

司 祭 チャールズ・フレデリック・ワレン (1899.6.8 英)

司 祭 ウイリアム・ペンジェリー・バンコンブ (1942.6.10 英)

司 祭 ジョージ・テンプシー (1960.6.11 英)

司 祭 ダニエル 植村 信久 (1980.6.13)

司 祭 ステパノ 橋本 節 (1996.6.15)

司 祭 アーウィン・ヘンリー・コレル (1926.6.16 米)

伝道師 マルタ 榎内 晰子 (1946.6.18)

司 祭 ベニヤミン 東 信行 (1943.6.19)

司 祭 牧岡 鉄弥 (1919.6.20)

司 祭 ルイス・パーキンソン・ヒル (1943.6.22 英)

宣教師 エディス・メアリー・バーナウ (1944.6.29 英)

主 教 横田 道信 (1946.6.29)

宣教師 アリス・マリアン・コックス (1949.6.29 英)

司 祭 ヨハネ 荒木 久雄 (1988.6.30)

司 祭 パウロ 水谷 博彦 (2008.6.30)

\*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 10 時 30 分から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

牧師館新築記念・地域イベント「ステパノ寄席」出演 桂出丸ほか。入場無料  
桃山学院大学 聖救主礼拝堂  
○4月25日(土) 午後2時から、「オルガン奉獻25周年」を記念してチャペル・コンサートが開催されます。オルガンニストは当大学オルガニスト松原晴美氏です。また、ゲストスピーカーとしてオルガン建造家の大久保壮介氏をお招きします。入場無料です。  
○5月20日(水) 午後1時から、

「オルガン奉獻25周年」記念の第2弾としてチャペルコンサートが開催されます。オルガニストはニユーヨークで活躍中の、渡邊清人・知江美ご夫妻です。こちらのコンサートも無料です。なお、定員数(250人)を超える場合は入場制限をいたしますのでご了承ください。



2015年6月 大阪聖パウロ教会は創立130周年を迎えます。

大阪聖パウロ教会  
創立130周年記念事業のご案内

英国ダンモウ聖マリア教会親善ツアー  
中止のお知らせ

大阪聖パウロ教会創立130周年記念事業の一環として、8月に計画していましたが英国ダンモウにある姉妹教会聖マリア教会親善訪問ツアー (JTB 夢旅人) は、諸事情が発生したため残念ですが中止させていただきます。ご了承ください。

また機会があれば近い将来当教会有志による訪問ツアーを企画することを検討中ですので、その際は改めてお知らせいたします。

なお、他の行事は前号のご案内通りに行いますので、よろしくお祈りいたします。

大阪聖パウロ教会 (牧師・司祭 林 正樹)  
創立130周年記念事業委員会 (委員長 岡本 正)

お詫びと訂正

教区報第441号の掲載記事に以下の誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

※3頁

「東日本大震災・小名浜ベースの活動報告」2段目4行 (誤) 郡山聖ペテロ聖パウロ教会

(正) 小名浜聖テモテ教会

※11頁  
「魂の平安を祈ります」  
○堺聖テモテ教会

(誤) ヨハネ 久野の信雄  
(正) ヨハネ 久野の信雄

(誤) ヨハネ 久野の信雄  
(正) ヨハネ 久野の信雄  
(2月3日・68歳)

※12頁  
「逝去者記念聖餐式」

(誤) 司祭 宗像 和雄  
(正) 伝道師 宗像 和雄

※付録「大阪教区各委員会・担当者等の構成便覧」1頁

「大阪教区台湾交流委員会」

(誤) 大隈彩恵子  
(正) 大隈彩恵子

「大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会」

(誤) 山本友里  
(正) 山本友理